

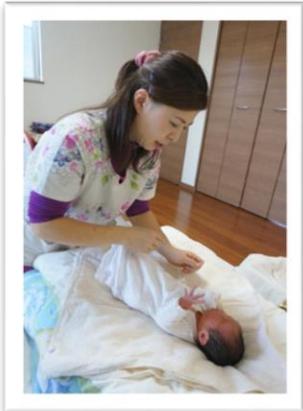
活動紹介：切れ目のない母子支援のための地域に根差した活動

～助産院を拠点にできること～

ことり助産院 院長

母性看護専門看護師 小嶋 由美（こじま ゆみ）

私は、地域で「助産院」を拠点として活動をしている母性看護専門看護師です。皆さんには「助産院」をご存じでしょうか。昔でいう「お産婆さん」がいてお産のお手伝いをするところですが、現在助産院で対応しているお産は、日本全体の1%にも満たない数です。しかし、助産師は「お産婆さん」と呼ばれていた時代から現代においても、お産をお手伝いするだけの役割でなく、女性の一生における様々な場面で、女性と家族を支援する役割を努めてきました。



助産院には、病院で出産されたお母さんも赤ちゃんの育て方・母乳のあげ方等のご相談に来られます。また、妊娠・出産・授乳で身体のバランスが変化し、腰痛が出たり歩行が辛かったりする方々に、個々に応じた丁寧な心身のケアを提供しています。さらに、助産院は「産後うつ」を予防・改善するための「産後ケア」の場としても注目されています。母子共に1日2日過ごし、母児で授乳のタイミングを図り、なによりお母様は子どもを預けてゆっくり休息をされ、その後の育児に向けて英気を養っています。また、思春期の方々には命をつなぐことの大切さ、そのためにどのようなことに気を配り成長してほしいかを伝えるために出前講座をすることもあります。このように、助産院は女性の一生のどの時期にも対応でき、気軽に寄って語れる場として機能してきたのです。私は助産院という場を活用し、**母性看護専門看護師**として**「高度看護実践」「倫理調整」**の役割を果たしています。

私は、助産院開設前に、大学病院やクリニック、市役所の母子健康課で仕事をしてきました。各施設にはそこでのルールや限界があります。助産師としての実践から、支援する人たち同士が施設を超えてうまく連携できると、まさに**「切れ目のない支援」**となるのに、と感じてきました。現在助産院では、産後ケア担当者の施設間調整の相談に乗ったり、助産師同士がネット上で交流できる場を作ったり、にんしんSOSのシステム作りを担ったりと、「相談」「調整」「教育」の役割を果たしています。母性看護専門看護師としての、助産院を拠点とした、助産院を超えた実践が実を結びつつあります。

これからも、母子が地域で健やかに過ごしていくように、自分にできること、色々な人と協力しながらできることを見つけていきたいと思います。

※写真は被写体の許諾を得て使用しています。

母子健康課の保健師さん
との連携

